アトリエ通信

号数 第5号
発行日 昭 63年 6月 24日
発行場所 釧教大絵画研究室

雑感

新井義史

卒業生からの短信について

第4号同封の葉書のかいあってか、卒業生からの返信が次々と送られてきました。顔を思い出しながら、ひとりひとりの文面を読む時と、それらの文面を5人6人と並べて全体として眺めたときとではまた違った思いがします。皆それぞれが頑張りそして踏んばって生きているという実感がこみあげてきます。

まったく別々の環境の中に生きていながらも、しかし現状を打破し、変革したいと願う共通した気力が、紙背から切々と感じられ感激しました。本号ではそれらの気迫に満ちたおたよりを7通紹介することにしました。

主夫業体験記より

五月三十日、私のふたり目のこどもが生まれました。ひとり目の時には、頭が痛くなるほどあれこれと考えた末に名前をつけた次第でした。しかし、今回は家内がフィーリングによって見い出した字から、「それでいいんじゃないの」的な安易（？）な発想から「岳（がく）」と付けました。実はヘナヘナ文で名高い椎名誠の子供と、彼の友人のカヌー犬とがこの名前だったように記憶していたために、犬の名前とおなじではまずいのでは、とも思ったわけですが、あまり一般的な名前もイヤでしたので、これに決定しました。子供の頃にはカラカワレソウな気もしますが、十年後には感謝されるとおもっています。

今回の出産では、手伝いが到着するまでの一週間産休と年休をとって、まだ二歳に満たないひとり目の碧の世話に没頭しました。母親がいなくても寂しがらずに生きていけるしっかりものの子供に支えられて、主夫業というやまだかつてなかった未体験ゾーンを経験しました。

私の腰までもない小さな人間の衣食住の全てを支え、しかも対応の仕方ひとつで日一日と変化していくこどものさまを見て、これまで頭ではわかっていたつもりになっていた子育てというものについてあらためて幾多の驚きを感じざるをえませんでした。同時に、四年間かかっても大して変化しない大学生とはたいした違いだとも思わされました。

肉体的な疲労感はあれども、こうした精神的な驚きと喜びの中で、女性の育児は継

続されているであろうことを身をもって感じました。

わずか一週間にすぎない期間ではあったがきわめて貴重な体験ができたことを幸せにもおもいました。

制作について

そんな感慨をいだきながらの生活の中で、中断させられている制作のことを思う。実は四月以降、これまでの人間中心の具体的な傾向をキッパリと棄て、全く別個のものにとりくんでみたいと考え、少しずつ進めてきている。

その理由のひとつには、人間中心の表現を進めていると、次第次第に表現自体が「陰蔚化」してくることへのイヤケがある。花鳥風月的なみせかけの美なぞは描きたくないと考えると、描く内容は必然的に逆の内容、いわばみせかけの美にとりまかれている人間の状況批判がテーマとならざるをえないわけで、暗く悲しい思いを込めて描かなければならない。これがイヤになった。

理由の二点めは「表現すること」自体の考えかた＝認識が自分の中で大きく変化してしまったことである。社会の中で映像環境がここまで進歩してしまっている中でありてこれまでのような表現に固執していることがむしろ滑稽に思えてきた。絵具で遊び、筆を味わう、そんな「愉みの」感情に満たされながら描く行為がなされることこそ創る行為の原点に置かれるべきではないのかと思えるようになってきた。

誰でも気づかぬうちに自分自身にワクをつくり、そのワクを打ち壊したいと願いながらズルズルと過去をひきずっている。なかなか客観的に自分を見下ろすことが出来ないのが人の常であるわけだが、部分的な改編ではまた元のワクの中に戻ってしまう。だから最近は過去の表現を全て棄て、極力ゼロから再出発しようと思い、とりあえず人間中心の表現と具体的表現そしてエアブラシの使用を行わないところから始めようとしている。

当分は他人からは無理解で、批判されようとも、より自由な行為を楽しむことのなかで表現を浮かびあがらせることを目標に三年間ほど頑張ってみたいと思っている。

追伸

今回真っ先に「返信」を届けてくれたのは麻子さんでした。文頭からの批判には耳が痛いところでしたが、批判しうるだけの自分の生活の充実ぶりが文面に感じられました。制作を再開した彼女の意気込みは他の卒業生には絶好の刺激になると思います。

かっての「通信」では、無理して制作を義務づけないほうが「快」の状態ではと述べたことがありました。しかし、今回の諸氏の感想のなかからは、やはり日常生活だけでは人の心は満たされないのではと思えました。まがりなりにも数年間ソノ気になって描くことに取り組んだ人は、結局いつまでも描くことのなかに自らのアイデンティテーを見いだすロマンを棄てきれないのではないかと思います。禁煙と同じく自分にとって必要になれば、再び三たびと再開しはじめればそれが最も幸せなのでしょう。今後諸氏から、「もういっかいはじめました」との返信が届くことを期待しております。

刺激がほしい中山さん、制作には締め切りが必要です。発表の機会を作ったらドンドン描けるはずです。麻子さんの切っ掛けも発表にあったわけですから。ちなみに今回の返信にはありませんでしたが、阿部さんの教職員美術展での作品は将来性を感じさせる良い出来でした。

'88 6/20

卒業生からの短信

第2弾――その1

「ゴ根性で制作再開！相変らずタクマシイ麻子です」5／24発

坂下 麻子（56年卒）

待ちに待ったアトリエ通信の乏しい内容に「がっかり」致しました。

先生〜、いくら子持ちになったからってこれは良くないぜよ。言った事は実行してくれないと。どんど〳〵通信出して下さい。夏期講習もないことだし、室生にもっともっとやらせるとかして（室生の人ごめん）。

ま、苦情はこれくらいにしてと、私もやや子を育てるのにしばしば我を見失っていた所、ある新聞社からの内職が入りまして、月に二枚程のカットというかスケッチ画を描いているのです。もう半年以上になります。それをキッカケに、このところ油絵に執着しまして カチカチのパレットにホルベックスをどっつりとかけてはとり、なにかにとりつかれたように四枚連続して描いている今日この頃です。いや〜油絵って本当にたのしいですねっ。盛岡に結構いい画材店があってルフランやなんか種類も豊富で親切で、この秋までにF50を描こうと思っています。まー、一からやり直しという感じ（ブランクがあったし）。

育児をしながらの制作、はっきりいって睡眠時間を削るしか時間は確保できませんが、一日四時間睡眠にしてでも制作活動はおもしろくてやめられないものだという事をこの年にして知りました。学生の皆さん恵まれすぎて何もしないうちに卒業するという事のないように。今年の卒作展は出品数が少なくて残念だったよ。乱筆にて失礼します。なお、絶対に七月に出して下さい。通信を。

2．糸森　研介　（62年卒）「臨教で踏んばってマス。」　5／25発

深緑の季節となり皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。さて私こと、この度岡山県津山市立南小学校に講師として過日、勤務を命ぜられました。一年間務めることになりました。ご連絡申し上げず失礼致しました。在学中は、ことばではいいつくせぬほどの御指導をいただき感謝しています。

現在、30名の児童の担任をしております。学年は4年です。毎日目まぐるしい日々をおくっています。もう二ヵ月がたとうとしています。「あっ」という間です。ひとりひとりの児童の学力、情操の教育を責任をもって保証するという事の難しさ・・・を痛感する今日この頃です。やっぱり子どもはかわいいです。しかってもしかっても次の日には「先生あのなあ」とだきついてきます。毎日が充実しています。一日一杯子どもと。もう体がへとへとになるのですが、そんなことは子どもにとっては関係ありません。僕も辛い顔しないで一つ一つ聞いてやり、答えてやらなければなりません。辛い顔できないのが辛い。ここが小学校教員として必要な“バイタリティ”“パワー”ではなかろうかと思います。頑張ろうと思います。釧路では大変皆様にお世話になりました。ありがとうございます。それではこのへんで、乱文乱筆お許し下さい・・・。

敬具

3．秋山　希嘉　（59年卒）「農家教師誕生―遠距離通勤ナンソソ」　5／26発

前略　今日アトリエ通信を手にして読んでみました。何かちょっとシャレた言い方をすると、北の都から、自分の青春時代からたよりが届けられたような気がします。

時は流れ時代は変わり、時間は風化をよぎなくされているようで徐々に徐々にうすれていくのが感じられます。唐津での空白としか言えない毎日にみきりをつけて四月から実家のある佐賀に戻って来ました。北海道に渡ってからもう、孤独の生活が7年もたっていました。

勤務先が変わったわけではなく、佐賀の自宅の方から早朝ＪＲ九州で１時間１０分＋５０ｃｃのバイクで３０分そしてやっと勤務先。なんだか都会の通勤サラリーマンのような生活をはじめています。　でも佐賀に戻ったのは稼業（稲作農家）を継ぐ長男としての御家の問題もありますが、そのきっかけは、倉本聡の“北の国から”とか灰谷健次郎の著作を今ごろになって読みはじめ（昨年の暮れより）、教員志願で就職まで来た自分の第二の目標というか何故稼業を継ぐべきかが少しずつ納得しだしたからです。上手は言えないのですが（単純なようで実は複雑な考えと勇気があったのです。）（自分＋農業＋教師＋登山＋ライフワーク）÷α＝Ｌｉｆｅなんてことかなと思うのです。

卒業生の先輩方、後輩は教師一本の人が多いようで羨ましく思えたり、もしますが、みんなこれからの自分をどう考えているのだろうか。

私事を先生につづってきましたが、ところで絵の方はというと、キャンバスをまだはっていません。チューブのキャップは固いまま時間をみつけては美術館に行って展覧会をみています。佐賀大美術の発表会は欠かさずに、その他にもいろいろでも、いま夏休みにはかこうと思っています。そうしないと自分がくさっていくようで、何とか候補地は決めています。

近況は、勤務先では早春、担任していた6年生の卒業記念に１ｍ×１ｍ×１ｍくらいのセメント製のハトの飛翔像を作った。それが今も運動場のすみにではあるけれど、立派に風雨に耐えて、はばたいています。仕事場では相変らずビーチサンダルをはいています。ペタペタと音をならして歩いている。－子供達には足音でわかるという。今春二年生１４名(男6人女8人)の担任になりました。友だちの顔などといってかかせたら大人では表現できない顔をかいています。「誰だこれは」ときくと「〇〇ちゃん」とはっきりこたえる「手が小さいな」と言うと「これでいいんだ」といいこわる。「人形さんみたいだな、首をかいて、鼻をかいて・・・」となおしていると「うわー、似ていない先生、

ねえちゃんが言いよったけど本当は絵うまかとだろう なんでこがんすっと…」と不平を言う。ぼくは次の言葉がでない。むずかしい年ごろだ。

先日、各自に目玉焼を作らせたのですが、それがおもしろいのです。後日書かせた詩を載せます。

「めだまやき」　　浜口　良子

しっぱいするかも　しれないぞ。
こげないように　きをつけろ。

おいしい、おいしい、めだまやき。
たべたい、たべたい、めだまやき。

たべたいよ。
じぶんで　つくった　めだまやき。
オムレツがたの　めだまやき

ちっちゃな　ちっちゃな　めだまやき。
小さな　おなかに　ぺこっとはいってのみこんだ。

こんなことをして児童と遊んでいます。「先生・・・先生・・・」「うるせぇ」と毎日毎日。

じゃ　また　1988.5月25日PM11:15　To Yoshifumi Arai　From Kiyoshi Akiyama.

〒840
佐賀県佐賀市
神園二丁目七一三二
TeL 0952 31-1378
秋山希嘉

PS.I.茂子fujin ni

中島みゆきの新いLP.今回も出産祝いにyoshifumi氏より買ってもらうんですか？そうして下さい　かのじょのLP雰囲気がだいぶ違いますよ。　もう中島みゆきじゃないような。

PS.II.

時が変わっても万年筆のインクはモンブラン、ウイスキーはニッカを用いています。これも大学時に新井先生から習ったことです。

ima mo kodawatte i ma su

4.安永　秀子　（60年卒）「カントリー・ガールの風景です」5／30発

ここは、私がいつも自転車でトレーニングしているなかで一番好きな風景です。今麦が色づいて上から見ると金色の絨毯の様です　すっかりカントリー・ガールしているでしょ・・・

いっぱいに絵をかいたら字をかくスペースが残っていなかった。

5.中山　恵子　（57年卒）「私はすっかり親バカよ」5／30発

新井先生、もう二人目のお子さんは生まれましたか？

出産は何度目でも大変なものと祖母（十人の子持ち）が申しております。

第五号では雑感にお子さんの話しがのることと思います。楽しみにしてます！〔ハガキ分〕

前略

絵画研究室の皆様、お元気でお過ごしですかアトリエ通信、楽しく読ませていただきました。発行が大変かと思いますが、頑張ってください。（特に新井先生！）

さて、私事ですが、三月十八日、無事男児を出産しました。乳児は苦手の私でしたがそんなこと言ってられません。今ではすっかり"お母さん"してます。

子どもを産むということは立場として大変特殊なことです。人類的な営みの一つにすぎないのですが、私事となると、それまでとすっかり人生観が変わる、変わざるを得ない、とでもいいましょうか・・・早い話、自分の事のみ考えてはいられなくなるということ。自分がなくなりそう。

毎日、子どもの笑顔を見て過ごしております。

ところで、私は絵をかいていません。私が絵をかける事を知っている職場の皆さんは「なんでかかないの？」「子どもと接しているんだし、子どもの絵かけるんでないの？」などと勝手な事を言っております。（ちょっと書きたいなと思っているんだけど）私も、何故かけないのかなあと思ったりもします。何故かけないのでしょう？

それは一つにはかく必要性を感じていないからなのです。そして、また、かく主題を決めかねているとも言えます。今ひとつのイキごみがないことが二つめにあげられます。私はぜいたくなのかしらね、絵をかく環境がきちんとなければ気持が向かないのです。（実は、その環境を作るのは自分次第なのですよね）かといって、全然かく気持がないのか、というとそうとも言えないようで。そのうちにまた始めるかもしれません。いえ、やっぱり、始めたいと思っています。（なにか刺激を下さい！）気長にかまえている私です・・・

絵をかくことは精神活動です。それぞれの思いの昇華がひとつの作品を完成させるといえるのではないでしょうか？あなたの中に潜在する、原始的な、あなた自信、それを（に）気付いて表現に

もっていければ・・・と思います。うーん、むづかしい・・・

絵画研究室を出て丸五年が経ち、知った顔がなくなってしまったので、多少寄り辛いです。でも、そのうちに顔を出したいなあと思っています。

新井先生、時代はかわりつつあるのですか？仕方ないこととはいえ、少々の淋しさを感じずにはいられません。室生の蓄気を望みます！

草々

（封書分）

6．河村　絵理子（62年卒）「事故にあつたらはがせて才」　6／1発

新井先生、アトリエの皆さん、お元気ですか？そろそろ丘馬展の準備でアトリエがにぎやかになってくる頃と思います。せっかく時間がたくさんあるのだから有効に使ってがんばって下さいね。（私が書くと説得力に欠ける気がしないでもないけど・・・・）

さて、怠け者でありながら運の良さだけで職にありつき、ＯＬになった私の近況ですが、一言で言って「目が回りそう」です。覚えること、仕事量、共に多く、運の良さだけでは渡っていけないところで（当たり前か・・・）・一度教わったことを忘れるとよくおこられるけど、必要なことはキチンとやっているのにお客様から無理な注文をされて困っていると親切にいたわってくれるというそこらへんがはっきりした職場で働いています。

だから、ゆううつになったり、元気になったりの細かい繰り返しで毎日が過ぎていきます。時々フッとむなしい仕事だなって思わないでもないけど、この環境に入ってしまった以上、あとは自分で、どう受け止めておもしろさを見つけていくかなのだわ！と一人で納得しています。ちなみに、自動車事故の担当ですので、何か困ったときには気軽に相談して下さいね。

，８８．５．３１．　河村　絵理子

7．内山　博之（58年卒）「またまた引っ越しました」6／1発

アトリエ通信、卒業後の記事出すことができずすみません。発行が遅れた原因の責任は私にあるのではと思って反省しながら通信を読ませていただいています。さて、近況報告をしたいと思います。この春大規模校の中学校から山口県立田布施養護学校徳山分校へ転勤となり、また引っ越しをしました。なんと一年おきに屋移りをしております。学校は精神薄弱の子が主でそのほか障害を重複している生徒もおり、今まで毎日が、登校拒否や生徒の問題行動などの生徒指導やクラブ活動に追われた中学校と違って毎日、穏やかな毎日をすごしております。運よく、学校が窯業に力をいれ

ているので思うぞんぶん窯芸をやっております。

昨年の夏山口県中学校教員展にF50号（アクリル画）を出品したわけですが山口の方は、北海道教職員展ほど大々的なものとはほど遠く、近年ようやく美術教員の交流の場をもうけようということで三年前に、若い先生方だけの中学校美術研究会というものを発足しました。私もそのメンバーの一人ですが、今年も三回めの教員展を迎え、小学校も含めた小・中学校美術展があり、何とか続けて出品しようと思っています。昨年の夏、久しぶりにアトリエを訪問しました。私がいた頃の雰囲気がそのままのこっているようで？安心しました。名前は忘れたのですが、あの時いたアトリエ生さんコーヒーどうもごちそうさまでした。前ぶれもなくまた顔を出すかもしれません。

ではまた・・・。

<丘馬展パンフレット表紙>

第38回 丘馬展

教育大学釧路分校
絵画研究室

伊藤　恵理　　松久　充生
大橋　拓　　藤井　つかさ
間山　正樹　　高橋　吏司
杉本　恵悟　　釜苑　真子

会期　62／7／18（月）～23（土）
会場　教育大小ホール

受信者住所録一覧

(63,6現在)

卒年度	氏名（旧性）	住所
	新井　義史	㊡085　釧路市鶴ケ岱　1-6-6　☎ 0154-42-5701
56	神　史明	㊡080　帯広市南町南８線西26番地77ｻﾝｺｰﾎﾟ412
	米坂下　麻子（高橋）	㊡028－56　岩手県下閉伊郡岩泉町門字西雷峠44-25
57	小林　広勝	㊡046　余市郡余市町富沢町　７－２
	米中山　恵子（松隈）	㊡086－11　中標津町　東８南９
58	米内山　博之	㊡745　山口県徳山市瀬戸見町2-33竹田ｱﾊﾟｰﾄ202 号
	阿部　智美	㊡086　根室市厚床　２－226
59	米秋山　希嘉	㊡840　佐賀県佐賀市神園２－７－32
	山中　哲也	㊡085　釧路市愛国39の230 岡坂ﾏﾝｼｮﾝ　1F3号
	高田　健二	㊡　＜　不明　＞
60	川守田広章	㊡　旭川市旭町２条16丁目　教員住宅
	安永　秀子	㊡793　愛媛県西条市神拝甲 234の 4
61	渡辺　弘樹	㊡092　網走郡美幌町元町21の13
	菅谷誉紫子	㊡085　釧路市武佐 1の 8の132
62	河村絵理子	㊡085　釧路市桜ケ岡 7-17-10
	篠塚　智子	㊡287　千葉県佐原市佐原イ・2210-1（実家）
	宗森　研介	㊡708　岡山県津山市林田 558-1

（米印は、４号（63.5）住所録と変更あり）

編集後記

第五号をお届けします。今回は発行を一ケ月先取りした驚異的な速さです。しかも内容も12ページという増大号、さらに紙面一新の感あり。麻子さん満足いただけたでしょうか。

「卒業生からの短信」９ページは、大橋君が頑張っておしゃれな構成をしてくれました。思うに、これまで記事内容までほとんど私が書いていたことが、つい発行が遅れてしまった理由のようです。今回のように企画に対して皆さんが即座に反応してくれれば、発行そのものは極めてスムーズにいくものです。今後も皆さんのご協力をお願いします。

今回記載の７名の方以外は返信が無かった（篠塚さんからは電話で近況報告をもらい、新住所・勤務先を伝えられたのですが、そのメモを紛失してしまいましたので載せることができませんでした）ので、次回はぜひその方たちに登場して頂きたいとおもいます。

神・小林・阿部・山中・高田・川守田
渡辺・菅谷・篠塚　さん、再度葉書を同封しますのでよろしくネ。

今回の記事の感想でも結構です。気軽にペンを執ってみてください。返信は８月末までにお願いします。第六号では、上記の方たちの記事を第一特集とし、７月に開催予定の「丘馬展評」を第二特集としたいと思います。発行予定は９月下旬の予定です。

さて、前回もご連絡しましたように、第７号（来年１月予定）では「卒業生の近作紹介」特集を組みたいと考えております。12月始めに全員に再度連絡をしますが、卒業後手がけた膨大な作品のなかから、１～２点を選んで写真に撮り簡単なコメントをつけてお送り頂く計画でいますので、こころがけておいてください。

新　井　記